

令和5年9月定例会

提案説明（9月5日提出分・決算認定）

ただいま上程になりました「市議案第71号 令和4年度大阪府豊中市各経済歳入歳出決算認定」について説明します。

説明につきましては、「提案説明資料（決算認定）」により説明します。

1 ページ目、令和4年度各会計決算総括表です。

一般会計と6つの特別会計、それから下段には3つの公営企業会計の決算状況を記載しております。

表は、左から、区分、予算現額、決算額として歳入、歳出、差引、繰り越すべき一般財源、そして実質収支です。

その隣が令和3年度の実質収支で、右端の単年度収支は令和4年度と令和3年度の実質収支の差引きです。

はじめに、一般会計です。

歳入の決算額1千852億7千726万4千55円に対して、歳出の決算額は1千786億7千537万508円で、差引である形式収支は66億189万3千547円です。ここから、繰り越すべき一般財源5億4千461万7千円を差し引きしたものが実質収支で、60億5千727万6千547円の黒字です。令和3年度の実質収支が55億3千783万1千207円であったことから、それを差し引いた単年度収支は5億1千944万5千340円の黒字です。

続きまして、国民健康保険事業特別会計は、実質収支が9億2千174万3千682円の黒字で、単年度収支が、2億5千956万6千753円の赤字です。

次の後期高齢者医療事業特別会計は、実質収支が2億7千567万4千212円の黒字で、単年度収支が2千895万8千57円の黒字です。

次の介護保険事業特別会計は、実質収支が8億9千768万5千182円の黒字で、単年度収支が1千87万8千356円の黒字です。

次の母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計は、実質収支が9千662万325円の黒字で、

単年度収支が1千417万9千46円の黒字です。

次の公共用地先行取得事業特別会計、財産区特別会計は、実質収支・単年度収支ともにゼロです。

一般会計と特別会計の合計につきましては、歳入が2千742億4千652万2千619円、歳出が2千654億5千290万5千671円で、実質収支は82億4千899万9千948円の黒字、単年度収支は3億1千389万4千46円の黒字です。

2ページ目、一般会計財政状況です。

令和元年度から令和4年度までの決算額の推移と、表の一番右には対前年度増減率を示しております。

まず歳入です。歳入規模の大きいものまたは増減の動きの大きいものについて、令和4年度決算額と対前年度増減率を説明します。

市税、716億8千599万8千円、1.7%の増。

地方譲与税、19億9千404万3千円、3.9%の減。

3段下の株式等譲渡所得割交付金、4億6千593万8千円、40.6%の減。

法人事業税交付金、8億4千44万2千円、30.0%の増。

地方消費税交付金、90億9千467万4千円、5.6%の増。

自動車取得税交付金、456万1千円、皆増。

2段下の地方特例交付金、4億34万5千円、48.9%の減。

地方交付税、104億2千740万7千円、9.4%の増。

2段下の小計欄は主要な一般財源の合計で、958億2千17万9千円、2.0%の増。

3 段下の国庫支出金、482 億 5 千 2 1 3 万円、7.7%の減。

府支出金、131 億 7 千 2 3 1 万 7 千円、13.3%の増。

財産収入、2 億 1 千 4 7 0 万 2 千円、47.6%の減。

2 段下の繰入金、58 億 5 9 8 万 3 千円、1,926.6%の増。

3 段下の市債、90 億 4 千 3 7 7 万 6 千円、24.4%の減。

歳入合計は、1 千 8 5 2 億 7 千 7 2 6 万 4 千円、1.6%の増です。

なお、増減率の大きいものにつきましては、のちほど歳入歳出目別一覧表を用いての説明の際に、主な増減理由を説明します。

次の3ページは、歳出決算を性質別に分類した表です。

性質別の歳出の説明は、この箇所のみですので、主な増減理由も併せて説明します。

2 段目の人件費は、279 億 9 千 8 1 0 万 4 千円、2.2%の増で、退職手当や会計年度任用職員の報酬等が増加したことによるものです。

物件費は、261 億 5 千 3 1 9 万 2 千円、7.3%の増で、中学校全員給食の実施に伴い給食業務委託料が増加したこと等によるものです。

その2段下の扶助費は、618 億 7 千 5 6 3 万 3 千円、4.8%の減で、主な要因としては、令和3年度に実施した子育て世帯への臨時特別給付金につきまして、令和4年度は申請期限の延長分のみ実施したこと等により、減となったものです。

投資的経費は、147 億 2 千 7 5 5 万 6 千円、45.5%の増で、令和3年度には体育施設整備事業や住宅整備事業を実施しましたが、令和4年度においては小中一貫校整備事業、地域連携センター整備事業等があり、建設事業の全体規模として上回ったため、増となったものです。

公債費は、91 億 2 千 7 9 万 2 千円、3.6%の減で、主に土木債の元利償還の減により、対前年度減となったものです。

積立金は、64億1千12万6千円、26.2%の減で、財政調整基金への積立が増となったものの、減債基金への積立が大幅に減となったため、対前年度減となったものです。

以上、4段下の歳出合計は、

1千786億7千537万1千円、1.3%の増です。

次の4ページは、一般会計決算状況で、平成15年度から令和4年度までの推移を示しております。

平成15年度当時は、平成10年度から続く実質収支赤字決算でしたが、平成16年度以降黒字に転じ、平成26年度に特定目的基金の繰入運用も解消して、今回に至っております。

次の5ページは、一般会計のプライマリーバランスの推移を示しております。下の棒グラフのとおり、本市では、平成15年度までプライマリーバランスが赤字で、平成16年度に黒字に転じた以降は、黒字基調を維持しており、令和4年度についても、64億2千700万円の黒字となっております。

次の6ページから8ページまでは、普通会計の財政構造、経常収支比率について掲載しております。

経常収支比率は、市税収入等の経常的な歳入一般財源を分母とし、人件費や扶助費など経常的な支出から特定財源を控除した額、経常経費充当一般財源を分子とした比率です。6ページの上の表の経常収支比率欄の太字部分について、令和4年度は92.5%で、前年度の84.9%に比べ7.6ポイントの悪化となっております。

これは、比率計算上の分母となる歳入の経常一般財源で、地方税や地方交付税、地方消費税交付金が増となったものの、分子となる歳出の経常経費充当一般財源では、物価高騰対応による物件費等の増や、障害者福祉費などの扶助費が増となったことなどにより、全体として歳入増加を上回る歳出一般財源の増となったことが主な要因です。

次に、下の表は財政力指数3か年平均の推移で、令和4年度は、0.87となっております。

この指標は、普通交付税の算定に係る基準財政需要額が分母、基準財政収入額が分子となっており、令和4年度については、分母の伸び率が分子の伸び率を上回ったため、前年から0.2ポイントの減となったものです。

次の9ページは基金の状況です。

左側の表は財政調整基金及び14の積立基金の残高を示しており、令和4年度末のこれら基金残高の合計は、表の一番下306億9千188万9千円で、前年度に比べ、3億6千万円の増です。

これは主に、予算上は計上しておりました公共施設等整備基金の一般会計への繰入を取りやめたことなどによるものです。

次の10ページは「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の概要です。

はじめに、1の実質赤字比率ですが、本市は一般会計等において黒字のため、バーで表示しております。

2の連結実質赤字比率についても、本市は関連会計が黒字または資金剰余のため、バーで表示しております。

3の実質公債費比率は、3か年平均で2.5%です。

4の将来負担比率は、分子における将来負担額から減じる要素が大きく、計算の結果、マイナスの数値となりましたので、バーで表示しております。

最後に、5の資金不足比率ですが、これは公営企業ごとの資金不足額の事業の規模に対する比率で、本市の各公営企業会計では資金不足が生じていないため、こちらもバーで表示しております。

令和4年度の健全化判断比率の4指標及び資金不足比率については、いずれも早期健全化基準等を下回っている状況です。

次の11ページでは、健全化判断比率等について、それぞれの指標が対象とする会計の範囲を示しております。

図の中ほどに水色の矢印で実質赤字比率の対象が一般会計等とされており、これは本市においては一般会計、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計及び公共用地先行取得事業特別会計が対象となっております。

その右の連結実質赤字比率は、これらに加えて国民健康保険事業や介護保険事業などの特別会計や病院事業会計などの公営企業会計までを対象としたもので、全会計連結での赤字比率を見るものです。

その隣の実質公債費比率は、一部事務組合である豊中市伊丹市クリーンランドを含めた実質的な公債費の比率です。

その右の将来負担比率は、豊中都市管理株式会社など、出資法人まで含めたものを対象としております。

以上で総括的な説明を終わります。

つづいて、各会計の歳入歳出決算について「歳入歳出目別一覧表」より説明します。

まず1ページ目、一般会計の歳入です。

款ごとに決算額と対前年度増減率を報告し、増減の大きなもの等につきましては、その主な要因を説明しますが、一般会計財政状況で決算額および対前年度増減率を説明している款については内訳別に説明します。

2ページ1行目の市税のうち、
2行目の市民税の決算額は352億4千699万1千円、
対前年度0.4%の増、うち3行目の個人市民税が対前年度0.1%の増、4
行目の法人市民税は対前年度3.0%の増です。

5行目の固定資産税は、259億6千193万6千円、1.9%の増で、
主に新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として令和3年度は評価替えにより増加した税額を据え置いておりましたが、令和4年度は反映したことによる
ものです。

11行目の市たばこ税は、30億3千761万円、
16.0%の増で、主に、市内取引量が増加したことが要因です。

17行目の地方譲与税のうち3ページ22行目の航空機燃料譲与税は、
13億6千677万5千円、5.7%の減です。

28行目の利子割交付金は、7千783万4千円、11.5%の減、

31行目の配当割交付金、4ページ34行目の株式譲渡所得割交付金といっ
たいわゆる「金融所得割交付金」の増減は、この間の金融・株式市場の動向を
反映したものです。

37行目の法人事業税交付金の主な増要因としては、経過措置として、令和
3年度は3分の2が法人税割額、3分の1が従業者数で按分されていた交付基
準が、令和4年度は3分の1が法人税割額、3分の2が従業者数で按分された
ことによるものです。

5 ページ 49 行目の地方特例交付金の主な増要因としては、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として、固定資産税及び都市計画税において特例措置を講じたことによる減収額を補てんするために交付された特別交付金が、令和3年度に比べて減額したことによるものです。

54 行目の地方交付税の主な増要因としては、国において税収が増加したことにより、普通交付税の追加交付が行われたことによるものです。

6 ページ 60 行目の分担金及び負担金は、13 億 9 千 6 3 8 万 4 千円、4.9%の増で、主に私立認定こども園等の負担金にかかる民生費負担金の増加などによるものです。

68 行目の使用料及び手数料は、20 億 7 千 4 5 3 万 5 千円、1.4%の増で、主に体育施設使用料の増加などによるものです。

7 ページ 85 行目の国庫支出金のうち 86 行目の国庫負担金は、345 億 3 千 2 7 7 万 9 千円、3.0%の増で、主に 90 行目の小中一貫校整備費にかかる教育費国庫負担金の増加によるものです。

91 行目の国庫補助金は、135 億 2 0 5 万 6 千円、27.1%の減で、主に令和3年度に低所得子育て世帯への給付や新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に係る国庫補助金を収入した分、令和4年度に減となったものです。

8 ページ 100 行目の国庫委託金は、2 億 1 千 7 2 9 万 5 千円、5.6%の増で、令和3年度の衆議院選挙に係る歳入に比べ、参議院議員通常選挙に係る歳入が増額されたことによるものです。

105 行目の府支出金のうち 106 行目の府負担金は、89 億 7 千 5 6 万 9 千円、3.7%の増で、主に 108 行目の民生費府負担金において、障害者福祉費等の伸びに応じて増となったものです。

111 行目の府補助金は、34 億 8 千 6 9 7 万円、52.8%の増で、主に 9 ページ 114 行目の衛生費府補助金において、新型コロナウイルス感染症の感染者増加に伴い、補助金が増加したことによるものです。

121 行目の府委託金は、7 億 1 千 4 7 7 万 7 千円、2.7%の増で、主に大阪府知事選挙及び大阪府議会議員選挙に係る総務費府委託金の増加によ

るものです。

127行目の財産収入のうち10ページ131行目の財産売払収入は、9千472万7千円、68.3%の減で、これは令和3年度に比べ土地売払収入が減となったものです。

134行目の寄附金は、3億6千926万6千円、9.3%の減で、令和3年度に財団法人豊中市スポーツ振興事業団の解散清算に伴う臨時の寄附を受けた分、令和4年度に減となったものです。

143行目の繰入金のうち11ページ148行目の基金繰入金は、56億2千713万円、3761.1%の増で、令和3年度は実施しなかった財政調整基金の繰入を実施したことによるものです。

13ページ185行目の市債のうち193行目の臨時財政対策債は、34億4千367万6千円、61.0%の減で、令和3年度にコロナ禍に対応した国の地方財政計画にもとづき発行を増やした分、令和4年度に減となったものです。

以上、194行目、歳入合計は、
決算額1千852億7千726万4千円、前年度比1.6%の増です。

次に14ページ、一般会計の歳出です。

15ページ1行目の議会費は、決算額6億4千660万7千円、増減率は5.1%の増です。

4行目の総務費、191億6千975万円、9.7%の増です。

うち5行目の総務管理費、165億9千165万1千円、10.9%の増で、主な要因としては庄内コラボセンターの整備に伴い、18ページ42行目の地域連携センター整備費が増となったものです。

19ページ51行目の選挙費は、3億8千77万円、69.0%の増で、令和4年度に実施した参議院選挙や市長及び市議会議員補欠選挙のほか、令和5年度実施の統一地方選挙の準備に要したものです。

20ページ66行目の民生費は、912億5千683万1千円、1.3%の減です。

うち 21 ページ 67 行目からの社会福祉費において、70 行目障害者福祉費の伸びや、物価高騰下における生活応援臨時給付金等の支給に伴い 74 行目社会福祉対策費が増となったものです。

23 ページ 90 行目からの児童福祉費において、92 行目の児童福祉費は、114 億 755 万 9 千円、31.9%の減で、令和 3 年度は新型コロナウイルスに関連する施策として子育て世帯への臨時特別給付金を実施した分、令和 4 年度に減となったものです。

25 ページ 111 行目の国民健康保険事業費は、38 億 4 千 515 万 2 千円、6.1%の増で、国民健康保険事業特別会計への繰出金が増となったものです。

26 ページ 118 行目の衛生費は、155 億 8 千 911 万 9 千円、5.6%の減です。

うち、119 行目からの保健衛生費について、121 行目の感染症予防費は、50 億 7 千 829 万 2 千円、21.4%の減で、新型コロナウイルスワクチン接種事業に係る経費の減によるものです。

123 行目の母子保健費は、7 億 8 千 899 万 4 千円、22.6%の減で、主に「不妊に悩む方への特定治療支援事業」について保険適用化等に伴う助成額の減によるものです。

27 ページ 133 行目の病院費は、23 億 5 千 601 万円、4.6%の増で、病院事業会計への補助金・負担金です。

134 行目の水道費は、2 億 9 千 799 万 5 千円、7.3%の増で、水道事業会計への補助金・負担金です。

136 行目からの清掃費につきまして、138 行目のごみ処理費は、13 億 8 千 536 万 7 千円、43.4%の増で、主にビン収集の委託化等に伴うごみ収集運搬業務委託料の増によるものです。

28 ページ 143 行目の労働費は、5 億 2 千 656 万円、3.5%の増です。

149 行目の農林水産業費は、4 千 557 万 1 千円、4.8%の増です。

29 ページ 153 行目の商工費は、17 億 7 千 2 3 3 万 6 千円、
21.6%の減です。

この間、令和2年度からコロナ禍での消費喚起策としてプレミアム付商品券の発行を行い、商工費の決算額としましては概ねその事業規模の推移を反映したものとなっています。

29 ページ 158 行目の土木費は、100 億 5 千 2 3 1 万 9 千円、
4.9%の減です。

うち159 行目からの土木管理費につきまして、
161 行目の公共用地先行取得事業費繰出金は、2 千 4 7 9 万 3 千円、
264105.5%の増で、主に大島町地区主要生活道路等に係る公共用地先行取得事業特別会計への繰出を行ったことによるものです。

30 ページ 165 行目の道路橋梁費は、29 億 8 5 万 9 千円、
1.5%の増、

うち168 行目の道路橋梁新設改良費は、7 億 2 1 1 万 1 千円、
23.6%の減で、令和3年度に利倉橋が全面開通したことに伴い、工事費が減少したものです。

31 ページ 174 行目の下水道費は、29 億 4 千 6 9 5 万 3 千円、
2.7%の増、公共下水道事業会計への負担金・補助金です。

176 行目からの都市計画費について、183 行目の公園整備費は
5 億 3 千 4 6 7 万 3 千円、49.5%の増で、金坂池跡地を取得し、
公園整備の基本設計を行ったことによるものです。

32 ページ 185 行目からの住宅費について、188 行目の住宅整備費は、
4 億 3 3 8 万 8 千円、66.1%の減で、主に、市営岡町北住宅1・2棟建替え事業が令和3年度に完了したことによるものです。

189 行目の消防費は、48 億 5 千 4 7 6 万 4 千円、0.1%の減で、
そのうち、193 行目の災害対策費は、1 億 9 千 4 2 4 万 1 千円、
50.8%の減で、新型コロナウイルス感染症対応に係る時間外勤務手当や特殊勤務手当などの減によるものです。

195 行目の消防施設整備費は、3 億 5 0 9 万 6 千円、228.4%の増で

主に消防車両の更新によるものです。

33 ページ 196 行目の教育費は、205 億 2 千 3 万 7 千円、
41.8%の増で、
うち、197 行目からの教育総務費につきまして、
207 行目の小中一貫校整備費は、61 億 1 千 9 万 7 千 6 円、
185.9%の増で、主に庄内さくら学園整備事業によるものです。

34 ページ 215 行目からの中学校費について、
218 行目の中学校給食費は、10 億 6 千 5 万 8 千 8 円、皆増で、
中学校給食が2学期から全員給食となったことによるものです。

35 ページ 221 行目からの社会教育費について、
36 ページ 233 行目の（仮称）郷土資料館整備費は、
1 億 3 千 4 万 3 千 円、皆増で、郷土資料館の開館に向けて、展示室等の整備を行
ったことによるものです。

237 行目の公債費は、91 億 2 千 7 万 9 千 2 円、3.6%の減です。

241 行目の諸支出金は、51 億 2 千 6 万 8 千 4 円、28.8%の減で、
主に37 ページ 245 行目の減債基金積立金について、令和3年度に今後の公
債費負担に備えるため積立てた分、令和4年度に減となったものです。

246 行目の予備費は、予算執行時において、予備費から当該執行科目へ充
当を行うため決算額としては、0となります。令和4年度は、住宅管理費及び
災害対策費に充当しました。

以上、249 行目、歳出合計は、
決算額 1 千 7 億 8 千 6 万 7 千 5 百 3 7 円 1 千 円、前年度比 1.3%の増です。

次に38 ページ、国民健康保険事業特別会計です。

歳入について、39 ページ 1 行目の国民健康保険料は、
79 億 1 千 3 万 9 千 1 円 4 千 円、1.3%の増です。

8 行目の国庫支出金は、181 万 6 千 円、98.1%の減です。

12 行目の府支出金は、277 億 2 千 2 万 3 千 6 円 5 千 円、

0. 4%の減です。

40ページ16行目の繰入金は38億4千515万2千円、
6. 1%の増です。

以上、41ページ33行目、歳入合計は、決算額407億195万2千円、
前年度比0. 5%の減です。

次に42ページ、国民健康保険事業特別会計の歳出です。

43ページ1行目の総務費は、7億4千753万4千円、
5. 5%の増です。

10行目の保険給付費は、270億1千458万1千円、0. 2%の減で、
そのうち、44ページ11行目の療養諸費は、
233億4千624万4千円、0. 3%の減です。

46ページ34行目の国民健康保険事業費納付金は、
116億2千973万5千円、0. 4%の増で、大阪府が府内全体の医療給付
費等必要額を市町村ごとに按分し、本市に示された額を納付するものです。

以上、48ページ59行目、歳出合計は、
決算額397億8千20万8千円、前年度比0. 1%の増です。

次に49ページ、後期高齢者医療事業特別会計です。

歳入については、50ページ1行目の後期高齢者医療保険料は
59億7千422万円、8. 1%の増です。

8行目の繰入金は11億9千896万円、5. 9%の増で、
一般会計からの保険基盤安定繰入金等です。

以上、51ページ24行目、歳入合計は、決算額74億6千12万円、
前年度比7. 7%の増です。

次に52ページ、後期高齢者医療事業特別会計の歳出です。

53ページ6行目の後期高齢者医療広域連合納付金は、
70億3千768万4千円、7. 3%の増で、被保険者から納付された保険料

収入と一般会計からの繰入金を財源として広域連合に納付したものです。

以上、54ページ15行目、歳出合計は、
決算額71億8千444万5千円、前年度比7.6%の増です。

次に55ページ、介護保険事業特別会計です。

歳入について、56ページ1行目の保険料は、75億508万5千円、
0.3%の増で、収納率の上昇などによるものです。

7行目の国庫支出金は、95億6千656万5千円、5.8%の増で、
介護給付費国庫負担金や調整交付金などです。

57ページ17行目の支払基金交付金は、
99億7千440万9千円、2.4%の増です。

21行目の府支出金は、51億4千11万3千円、2.1%の増です。

58ページ30行目の繰入金は、64億5千388万2千円、
6.4%の増です。

以上、60ページ53行目、歳入合計は、
決算額395億3千357万7千円、前年度比3.1%の増です。

次に61ページ、介護保険事業特別会計の歳出です。

63ページ11行目の保険給付費は、
356億1千838万4千円、3.3%の増です。

68ページ56行目の基金積立金は、2億2千239万3千円、
153.6%の増で、前年度の第1号被保険者に係る保険料の剰余分を介護給付費
準備基金へ積み立てたものです。

以上、65行目、歳出合計は、
決算額386億3千589万2千円、前年度比3.2%の増です。

次に69ページ、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計です。

歳入につきまして、70ページ7行目の諸収入について、うち、

8行目の貸付金元利収入は、3千540万2千円、10.4%の減です。

以上、13行目、歳入合計は、決算額1億1千803万円、前年度比25.7%の増です。

次に71ページ、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計の歳出です。

72ページ1行目の母子父子寡婦福祉資金貸付事業費は、509万5千円、55.6%の減です。

5行目の公債費は1千123万1千円、皆増です。

以上、73ページ11行目、歳出合計は、決算額2千141万円、前年度比86.6%の増です。

次に74ページ、公共用地先行取得事業特別会計です。

歳入について、75ページ4行目の繰入金は、1億8千188万3千円、15.3%の増です。

以上、12行目、歳入合計は、決算額7億2千569万3千円、前年度比291.0%の増です。

次に76ページ、公共用地先行取得事業特別会計の歳出です。

77ページ1行目の公共用地先行取得費は、5億1千954万8千円、2019.8%の増で、令和4年度においては、都市計画道路曾根島江線及び服部天神駅周辺地区における駅前広場の整備に伴う用地取得にかかる経費です。

以上、歳出合計は、歳入合計と同額です。

次に79ページ、財産区特別会計です。

豊中市（旧熊野田村）財産区など、23財産区の決算で、歳入につきまして、80ページ4行目の財産収入は、3億5千479万3千円、6432.8%の増で、金坂池跡地の売却によるものです。

以上、81ページ16行目、歳入合計は、決算額4億2千988万7千円、

前年度比 686.4% の増です。

次に 82 ページ、財産区特別会計の歳出です。

83 ページ 1 行目の財産費は、
4 億 2 千 9 8 8 万 7 千円、686.4% の増です。

以上、85 ページ 26 行目、歳出合計は、歳入合計と同額です。

以上、概括的でございますが、令和 4 年度各経済歳入歳出決算認定の説明を
終わります。